



令和6年度定期総会を開催

1 遠藤会長 挨拶

冒頭、令和6年1月1日に発生しました石川県能登地方を震源とする地震災害に対して、犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復旧と復興を願っております。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し1年が過ぎ日常を取り戻した中、各自主防災組織の皆様におかれましては、地域の安全・安心のために積極的な活動を実施いただいているところであります。いつ起こるかわからない災害に備え、日ごろより人と人とのつながり、団体間のつながりを密にすることで、自助・共助の取組の活性化が図れます。八王子市自主防災団体連絡協議会では、行政機関との連携は勿論、団体間の連携を強化するため、様々な事業を通じて地域防災力の向上に努めております。また、事業などに参加する女性が少ないことから、八王子女性防火協会からの助言をいただき参加しやすい環境作りを推進して参りますので、今後とも、本協議会に対する会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



2 令和6年度(2024年度)定期総会

令和6年(2024年)5月29日(水)八王子エルシィにおいて、定期総会が開催されました。総会には、出席団体108団体、委任状222団体、合計330団体により、令和5年度決算のほか、全ての議題が承認されました。ご出席いただいた各団体につきましては、定期総会での熱意あるご審議、誠にありがとうございました。本総会において、事務局長より協議会のデジタル化についての報告がありました。今秋の郵便料金の値上げに伴い、分担金を圧迫する事が予想されることから、紙面送付を取り止め、電子データの送信への移行を提案しております。後日、アンケートを行いますので、御協力いただける団体におかれましては、デジタル化の推進にご協力をお願いします。



定期総会会場の様子

3 懇親会

定期総会終了後、懇親会を開催し43団体62名の方々が参加くださいました。開催にあたり、八王子市長並びに八王子市議会議長から災害時に対する自主防災組織の活躍を切望している旨、御挨拶をいただきました。参加された方は、それぞれの自主防災組織での取り組みについて意見交換が行われるなど、共助の連携が促進される有意義な会となりました。なお、昨年より1団体2名まで参加できるようになっています。他の団体と意見交換できる場として開催していますので、次回の懇親会にも遠慮せず多数の皆様の参加をお待ちしています。



締め挨拶：並木顧問

地域訓練の紹介

地域の防災訓練は、災害発生時に住民が迅速かつ適切に対応できるよう、実践的な訓練を通じて防災意識を高める重要な役割を担っています。ですが、訓練のマンネリ化や人が集まらない等で、お困りの団体も多いのではないのでしょうか。そうお悩みの団体に、参考になる取り組みをしている防災訓練を紹介します。

市立第二小学校は、平成 27 年 10 月から様々な機関と協力し、合同で防災訓練を行っています。訓練参加機関は市立第四中学校、八王子消防署、八王子市消防団、八王子市、周辺 12 町会、周辺保育園と多岐に渡ります。一つの組織だけで行える防災訓練には、限りがあります。そこで、各担当町会・学校・運営協議会が力を合わせて内容の検討を行い、実践的な訓練を作り上げていこう、という想いから、この合同訓練が始まりました。

震度 6 弱以上の震災を想定した訓練内容になっており、訓練の流れも、①近隣の市職員が駆け付け第二小学校の体育館を開放②教育委員会職員が学校や地域と協力して避難所を開設③避難生活が長期的になり、町会が避難所を運営。という理想を実践するためのものになっています。

この訓練の特徴は、2 点あります。1 点目は、参加者間でコミュニケーションが図れるよう、工夫されていることです。訓練を通じて顔が見える関係を構築しておくことで、災害時の迅速な情報共有や安全確認が容易になります。2 点目は、中学生が小学生に向けて、講義を行うことです。講義することにより、中学生の防災に対する理解の深化や当事者意識が芽生え、小学生は年が近い中学生から学ぶことで、わかりやすく理解できます。小中学生を育成することで、現在だけでなく、将来の地域防災力向上も図っているわけです。

今回は、多くの機関で力を合わせて災害に備えている取り組みを紹介しました。訓練方法に正解はありません。各地域で訓練を検討する際の参考になれば、幸いです。



訓練の様子：中学生が参加者に講義します

自防連初の試み！朝霞駐屯地視察研修のご紹介



今年度は、自防連事業初となる陸上自衛隊を視察します。「自衛隊って、普段何をしているの?」、「災害時は何をしてくれるの?」などなど、様々な疑問があると思います。自衛隊は、災害時に助けに来てくれる組織。それは知っていても、詳しくご存知の方は少ないのでは? 本研修に参加すれば、自衛隊への理解が深まります。

研修は二部構成となっており、午前中は陸上自衛隊広報センター「りっくんランド」を見学します。ここでは、陸上自衛隊の装備や歴史を学ぶことができます。中でも、射撃やヘリコプターの操縦を体験できるシミュレーターやリアルな 3D シアターが人気です。本研修では時間の都合で体験できないコーナーがたくさんありますが、りっくんランドは一般人でも入場可能です。ぜひ遊びながら、楽しく自衛隊を学びに訪問してみてください。

午後は、いよいよ朝霞駐屯地の視察です。朝霞駐屯地は陸上自衛隊の心臓部です。陸上総隊司令部が置かれ、国内外の様々な任務に対応しています。国の重要施設であるため、もちろん一般人立入禁止ですが、今回は特別に自防連の研修を受け入れてくださいました。

朝霞駐屯地には、災害派遣などに係る重要な役割を担う部隊も属しています。その方々の災害派遣の実体験などを講演して頂く予定であり、これを聞けば、自衛隊の活動内容への理解が深まる事間違いありません。

また、今回は特別に朝霞駐屯地内の食堂で昼食をとることができます。秘密に包まれた自衛隊の食事を堪能できますので、乞うご期待!!

※研修内容は、変更となる可能性があります。

本研修について、朝霞駐屯地及びりっくんランドに問い合わせはしないでください。

朝霞駐屯地視察研修の日時については、現在陸上自衛隊と調整中です。
11 月下旬頃、募集通知を送付予定です。



”ポストコロナと想定を超える災害に向けた町会・自治会の防災対策を考える”

上大和田町会は本年設立 81 年を迎えます。この間、大きな災害に遭遇することなく、高齢の諸先輩方々からの被災体験もほとんど聞かれない、地震・風水害など災害に強い町と言われています。防災訓練は年に 1 回だけですが、200 名を超える参加者が第十小学校に集結し、八王子消防署小宮出張所、市役所防災課の方々の指導のもと、消火器操作、119 番通報、AED・心臓マッサージ、応急救護、起震車・けむり体験などの基本的な訓練とドラム缶大のかまどによる大鍋の炊き出し訓練も行ってきました。コロナ禍でも消防署や市役所の専門家による防災講話を人数限定で行い、コロナ明け 4 年ぶりの訓練では、第十小学校に設置されていた防災トイレの初公開、浅川の水門を開閉してもらい、現地説明会を行いました。また東京都つながり創生財団の支援にて防災クイズの展示体験も行い、飽きの来ない防災訓練を目指して来しました。

しかし、町会会員の防災意識の向上という観点からは、訓練成果を大きく宣伝出来るような防災訓練が出来ているとは言えない状態であると感じています。当地域で対策すべき災害は風水害と地震ですが、住んでいる場所によって、町会会員の防災意識は少し異なります。1200 世帯を超える町会員を有する当町会は、大和田緑地の高台からハザードマップで警戒区域となっている急傾斜面地、浸水が想定される浅川沿い地域など広範囲にわたります。場所によっては地震だけではなく、風水害対策も優先度の高いものとなります。

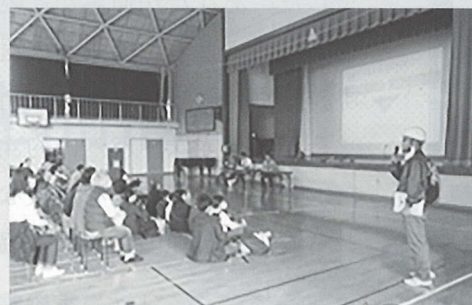
地震の予測はまだ難しいですが、昨今風水害の予測はかなり精度が上がり、早目の避難が命を守る重要なポイントです。地震はまずは自分の身を守るための防災スキルの向上が重要ですが、風水害はいかに早めの避難が大切かの防災意識の認知度アップ、災害情報収集能力のスキルアップがキーとなると考えます。

ここ数年これらの啓蒙活動を積極的に行い、ハザードマップの徹底や防災情報の紹介を回覧板や防災訓練だけでなく、ホームページの活用による情報発信・収集にも注力しています。

また、コロナ禍の経験や本年初頭の能登地震で我々の防災意識も大きく変化しているのではないのでしょうか。被災者の救出や消火作業の訓練を素人がいくら行っても役に立つとは思えない場合があります。電話連絡網や合同避難訓練より、正確で迅速な災害情報の入手と伝達手段の徹底が役に立つことが多いかも知れません。

しかし地域のコミュニティ、周辺地域の町会・自治会との連携も重要と考えます。在宅や事前避難が推奨される時代になり、ホテルや知人宅への避難をいざという時に検討すべきとは言うもののそう簡単ではありません。さらには災害弱者の抽出やリスト化、安否確認の迅速化など、町会の優先すべき防災対策とは何だろうと日々悩む毎日です。

上大和田町会は災害弱者と想定される世帯のリスト化と防災アプリの利用も視野に入れた安否確認システムの具体化、デジタル化の検討を今年度中に開始すべくプロジェクトチームを発足させました。今後も様々なことに意欲的に取り組んで行く予定であり、それが少しでも上大和田町会の安全に繋がっていくことを願っています。



防災講話の様子。訓練が飽きられないよう、工夫を凝らしています。



日常備蓄の展示を行い、自助の強化も図っています。

八王子市からのお知らせ ～街頭消火器～

街のヒーロー「街頭消火器」！！

想像してみてください。あなたが街を歩いているとき、突然「助けて！」と叫び声が聞こえてきました。あなたが何事かと駆け寄ると目の前には炎が燃え広がろうとしています。

この時、近くに街頭消火器があれば、小さな火災を大惨事になる前に食い止めることができます。そう、街頭消火器は「街のヒーロー」と言える存在です。

八王子市では、市内に約 4,200 本の街頭消火器を配備しており、管理・交換を行っています。また、町会にも定期的な点検などを行っていただき、常に使用可能な状態が保たれております。今後とも適正な管理のためにご協力をお願いいたします。

しかし、

昨年の 12 月末から一部の地域で街頭消火器のいたずらが多発している状況です。街頭消火器本体が紛失し、周辺に噴射される被害も出ています。街頭消火器の投棄や格納箱が空になっているなど、お気づきの方は、警察署または市役所までご連絡くださいますようお願いいたします。

※市で配備している消火器・格納箱には市章及び管理番号が記載されています。



初期消火、命！！

問い合わせ

八王子市役所生活安全部防災課

電話（直通）042-620-7208

コラム ～能登半島地震災害復旧支援に派遣されて～

令和 6 年 1 月 1 日 16 時 10 分に石川県能登半島で発生した能登半島地震。現在も多くの方が日常生活に戻れておらず、まだまだ復旧途上にあります。能登半島には多くの自治体から応援職員が派遣されていますが、当協議会事務局員も、八王子市応援職員として現地に派遣されました。事務局員が実際に被災地の様子を見て、被災者の話を聞いて、改めて防災について感じたことをお伝えします。

輪島市役所に災害復旧支援（罹災証明書発行業務）派遣中に、罹災証明書の窓口に来られたご家族から被災体験を聞くことができました。

地震で自宅が半壊し、自宅裏の崖も崩落寸前の状態。危険を感じ、それから自宅には入らず、車中泊を行いました。1 月 3 日正午頃まで助けがこない孤立状態であり、その間、電気・水道・ガスは止まり、食料もなく、生きた心地がしなかったそうです。1 月 3 日昼過ぎに自衛隊が現地入りし、食料支援を受けることができて、嬉しくて涙が止まらなかったと仰っていました。

大規模災害発生時は、インフラが破壊され、孤立無援状態になる可能性があります。その間、自分や家族を助けられるのは、自分だけです。食料・飲料備蓄については、最低 3 日分、理想は 7 日分の確保が求められます。実際に災害が起きた後に、「用意しておけばよかった」は通じません。

被災者の体験談から、改めて平時の準備が重要だと教えられました。皆様は、災害への備えは十分ですか？有事を想定し、何が必要なのか？何が不足しているのか？よく検討し、平和な今だからこそ、しっかりと災害に備えていきましょう。

自防連では、デジタル化を進めています。

自防連だよりや各種募集通知等を紙面ではなく電子データで希望される団体は、事務局までお問い合わせください。

【八王子市自主防災団体連絡協議会事務局】

八王子市役所 2 階防災課内

電話 042-620-7207 FAX 042-626-1271

E メール b210300@city.hachioji.tokyo.jp

